

書く!描く!撮る!子どもたちが作るローカルマガジン

こどもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト 伊豆市



KURURA

未来の伊豆をデザインする
子ども達とプロが創る情報誌

10号記念
2022 Vol.10

特集 1 伊豆で“のんびり”癒されよう
贅沢にリラックス
和の魅力 柳生の庄
紙漉き／なごみの湯／古民家カフェ
みんなの身近な癒し

特集 2 伊豆で“きらり”輝く人
世界から伊豆にランナーを呼ぶ仕掛け人
伊豆の隠れた有名人
伊豆から世界を目指す中学生サーファー
夢は世界チャンピオン

10周年記念企画
1 KURURA制作実行委員会 委員紹介
2 KURURAの歩んできた10年間
と COLOMAGA project



こどもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト 伊豆市

KURURAは伊豆市の子ども達と様々な分野で活躍するプロ達との
コラボレーションにより制作された地域のガイドブックです。



9izu

SURPRIZU
NONPROFIT ORGANIZATION

COLORCODE
デザイン事務所 + ラボ

COLORFUL
design for everyone

未来の伊豆をデザインする子ども達とプロが創る情報誌
くるら KURURA

2022年12月発行 発行人 KURURA 制作実行委員会 〒410-2407 静岡県伊豆市柏久保1304 1F(伊豆市若者交流施設《9izu》内)

こくみん共済 COOP 地域貢献助成事業
支援: アーツカウンシルしづおか

KURURA

2022.12 / vol.10

タイトル / 題字 海聖・崇翔・翼・陽大
KURURA Vol.1 メンバー
伊豆市立修善寺南小学校卒業生



今年のテーマは



伊豆ブランドと聞いて想像するものは何ですか？

伊豆には豊かな自然、おいしい水、地域で輝いている人など魅力的なところがたくさんあります。ただ高級なものではなく、「自慢できるもの」「誇れるもの」を今回は「伊豆ブランド」と題して紹介します！

特集1 伊豆で“のんびり”癒されよう

- 04 | 和の魅力 柳生の庄
- 06 | 紙漉き／なごみの湯／古民家カフェ

特集1-2

- 08 | みんなの身近な癒し

特集2 伊豆で“きらり”輝く人

- 10 | 伊豆の隠れた有名人
- 11 | 夢は世界チャンピオン
- 12 | 10周年記念企画① KURURA 制作実行委員会 委員紹介
- 14 | 10周年記念企画② KURURA と COLOMAGA project の歩んできた10年間
- 16 | COLOMAGA Summit Vol.2 レポート
- 17 | Izu City Guide Map
- 18 | 編集後記
- 19 | COLOMAGA Project の活動について



コロマガは「ESD」の実践活動

2013年度に産声をあげたコロマガは、子どもたちがこの制作を通して地域に愛着や誇りをもち「持続可能な社会を創りたい」という気持ちを育てられる実践的な活動と言えます。この「持続可能な社会の創り手を育てる教育」がESD(Education for Sustainable Development)と呼ばれているものです。同じ頃、2015年国連サミットで世界のリーダーが集まって2030年までの目標を定めました。これがSDGs(Sustainable Development Goals)といわれる17の目標と169のターゲットからなるものです。今、世界中でこの目標を達成するために産・官・民・学のあらゆる機関を上げて取り組んでいます。そしてこのSDGsを達成するためのエンジンがESDであるといわれています。

子どもたちの未来のためにみんなでコロマガの取り組みを応援してください。

ESD-J理事 大塚明



インスタやってます！
www.instagram.com/izuni_kurura



COLOMAGA 伊豆市版



「伊豆の魅力を伊豆人に届けたい。」
をコンセプトに活動しています。

この冊子は、伊豆市の子どもたちが、自分たちの住んでいる町を大人たちと一緒に、調べて、聞いて、まだ地元の伊豆人たちが気づいていない伊豆の魅力をもっと伝えようと思い、クリエイターと一緒にコラボレーションで創った伊豆の情報誌です。この冊子の名前「KURURA(くるら)」は、来るよね？来るでしょう！を表す伊豆地方の言葉で、vol.1制作時の、小学5年生の男の子たちのチームが名付けてくれました。

こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト project

わたしたちは、
このコロマガプロジェクトを通して
こんな社会を実現していきたいと
思っています。



子どもたちの
創造性・独創性を
育み活かす機会が
増えること

ふるさとを
自慢できる
子どもたちが
増えること

「デザインの力」
を理解できる
子どもたちが
増えること

大人と子どもが
一緒に何かを創り出す
関係が増えること

「この活動いいね」と思ってもらえたなら
応援をお願いします！

この活動は有志による非営利事業です。

【法人の方へ】

次世代を担う子どもたちの育成は、CSR活動やSDGsの推進の一環になり、企業としての社会的な責任を果たすことが出来ます。ぜひご相談ください。

【個人の方へ】

自分のくらす「まち」を好きになり、故郷を自慢できる子どもたちを応援するこの活動の応援をお願いします。

ご寄付の振込先

静岡銀行 修善寺支店 普通口座 0446730

口座名義：KURURA制作実行委員会

連絡先：izukurura@gmail.com

お振込みの場合はお名前と連絡先をメール等でお知らせください

※応援特典

・冊子とホームページにお名前を掲載します（ご希望の方）

・子どもたちからお礼の手紙をお送ります

・冊子の完成発表会にご招待します

伊豆で“のんびり”癒されよう

柳生の庄は建物や部屋がすごいだけじゃないんです。修善寺温泉ならでは、お風呂もすごいんです。

柳生の庄にある全15部屋には部屋によって違う3種類のお風呂があります。ヒノキのお風呂、石風呂、左官づくりのお風呂です。左官づくりとは木のわくに土や砂などを流し平らにしてかべを作ることです。お風呂としては珍しいですが柳生の庄ではこの左官を使ってお風呂を作っています。また上下左右お



みているだけで
癒されるお風呂



INFORMATION

【柳生の庄】
伊豆市修善寺 1116-6
TEL: 0558-72-4126



風呂の高さをそろえたりして工夫もしています。
また柳生の庄には大浴場の「むさしの湯」と「つうの湯」があります。この「むさし」とは、有名な宮本武蔵のことです。これらは吉川英治さんは小説家で、「宮本武蔵」などの本を出しています。そしてその作中に柳生の庄は出てきます。このことから、この二つはお風呂の大きさがちがうため時間で男女入れ替えになっています。またどこのお風呂でも自然でいやされる

ことができます。

今はコロナでお客さんは減ってしまっていますが、私たちも伊豆の歴史を感じ、いやしながら取材を行

うことができました。皆さんも伊豆

外観から伝わる落ち着く雰囲気とにじみ出る高級感、着物を着ていた時代の上品で美しい日本が頭に浮かびました。修善寺の高級旅館、柳生の庄さんです。ここでは、和から離れつつある今の時代で「飽きられない旅館」を目指しており、和を大切にしているそうです。建物全体を「数寄屋造り」という茶室の様式を取り入れた建築様式についてのが特徴で、船底の形の

天井、独特な模様の柱…。日本の技術で作られたからこそその迫力が豪華さを引き立てていました。お部屋に行くと少し違った落ち着いた作りのものが多く、自然が堪能でき、リラックスできます。そんな日本の技術がたくさん見られます。また東日本で唯一、完全な数寄屋造りの建物がここなんですね。洋を合わせないとこは珍しいようなので、数少ない完全な数寄屋造りを体験してみてください。そんな和を愛する柳生の庄ですが、ところどころに海外のものを取り入れているのだとか。例えばエレベーターのクッショーン。女将さん自ら海外から取り寄せたもので、和を大切にしているのに海外でいいと思ったものを取り込んでいっているそうです。お二人は地元を飛び出して海外で経験を積んでから日本文化を学んだ女将さん。海外でいいと思ったものも取り込んでいっているそうです。お二人は地元を飛び出して海外でいいことだと口を揃えて言っていました。経験をとことん活かす素敵な旅館です。無くしてはいけない和の文化を主に、新たなものを取り込む柳生の庄には驚きの連続。ぜひ体感してみて下さい。

仲居さんとは？？

仲居さんとは、身の回りの世話をしてくれる人です。私は苗字かと思っていました！仲居さんは、お客様のペースに合わせて料理を出してくれます。私みたいに食べるのが遅い人にはありがたいですね！



季節・月ごとに料理内容が変わる！

柳生の庄に何回か行ったことのある人、気づきましたか？私は献立が変わることすら知りませんでした！びっくりです。こんなにたくさんの献立を考えるのは大変だと思います。だけど月ごとに変わるのなら、どんな献立が出るのかすごく楽しみですね！



女将さんのお気に入りは？

女将さんのお気に入り自家製シャーベット！ほわほわ～としていておいしいそうです！いいですね！私も食べてみたいです！部屋・食事・風呂、おもてなし最高だと思います！食事は、地場産のものを使っているそうです！なので、興味がある人は毎日百円貯金して、1年半で泊まりに行きましょ～！私も、行きたいので、頑張って貯金して行きたいです！！！

贅沢にリラックス 和の魅力 やぎゅうのしょう 柳生の庄



伊豆最古の温泉地
『修善寺温泉街』の奥に、
静かにたたずむ高級旅館

取材/N+S 文/雲羽・菜奈・千怜 写真/七海・雲羽 イラスト/七海・雲羽



今回は自然に囲まれた伊豆だからこその癒しに注目して取材に行きます！

お金には代えられない体験をして、みんなも伊豆の癒しスポットで元気をもらおう！



完全な
数寄屋作り。
なんと東日本では
ここだけ！

修善寺紙谷和紙工房の かみす 紙漉き

取材/KAMISUKI 文/倭 写真/丞・他 イラスト/明音・美翠



古くから修善寺で漉かれる「修善寺紙」。
里山にある工房での紙しき体験で癒される
こと間違いない！

INFORMATION

【修善寺紙谷和紙工房】
伊豆市修善寺 1302-1
TEL: 050-3699-4284
washi.kamiya.shuzenji@gmail.com
体験・見学希望の際は、事前にご連絡ください



ぼくは、修善
寺紙谷和紙工房
の取材に行って
いろいろなことを
知りました。

まず、紙をつくる
までの作業です。はじ
めに材料の木(ミツマタ)
を取り取ります。次にかり取った
皮をはぎ取ります。次にその皮
をします。次に蒸した材料
を蒸します。材料を蒸すと
します。ちりとりというのには、に
た皮に茶色っぽい汚れがある場合
があり、そのよごれを取ることで
す。次にちりとりした皮を大きな
木の棒でたたきます。次に紙をつ
くります。紙をつくったらその紙
をプレスして水をしぶり取ります。
次に水をしぶり取った紙を板に
はつてかんそくさせます。かんそ
うさせた紙がかわいら板からは
がして完成です。このように紙を
つくるまでにいろいろな作業があ
ることが分かりました。それから
紙をつくるのに材料を育てるのも
いれると約三年かかるそうです。
紙を一枚つくるのに三年もかかる
とは思わなかつたので、びっくり
しました。そして、紙をつくるの
はすごく大変なんだということが
分かりました。



この取材をして、紙にはいろいろな歴史があるんだなということ
が分かりました。そして紙をつくる大変さが分かりました。この取
材をして学んだことを他の人にも
話して少しでも紙しきに興味を
もってもらえるようにしっかりと
伝え、紙しきを広めていきたいです。
ぼくは、修善
寺紙谷和紙工房
の取材に行って
いろいろなことを
知りました。
二つ目は、この仕事を通して伝えら
れることは？です。自分の地元が富
山県でこのような紙づくりとい
うものがなかつたからこの修善寺に來
た。だからまず地元の人にこのよう
なことを伝えたいと思つているそ
うです。三つ目は、拓人さんの夢はな
んですか？です。拓人さんの夢は、
修善寺に紙しきを広めることだそう
です。
田拓人さんに質問しました。一つ目
は、なぜこの仕事をはじめたのかで
す。拓人さんは、もともと伝統が好
きで物づくりも好きだったから和紙
をつくる仕事をはじめたそうです。
次に、この仕事をやつてている舛
田拓人さんに質問しました。一つ目
は、なぜこの仕事をはじめたのかで
す。拓人さんは、もともと伝統が好
きで物づくりも好きだったから和紙
をつくる仕事をはじめたそうです。

なごみの湯

湯の国会館

取材/Aqua 文/優那

写真/のの夏・善

イラスト/萌花・百叶

湯の国会館の歴史は、平成

元年からだそうです。そのため、昔ながらの雰囲気で、取材をしている時も暖かさといこっちのよさを温泉のようにポカポカと感じられました！

温泉の種類もとても豊富で、露天風呂は季節を感じられたり、温泉の水風呂だったりと他に魅力をもっていました！特に第三土曜日の女湯はバラ風呂になっていて、クレオパトラのようななリッチなひとときを味わえます。湯の国会館の温泉には、お肌と心の両方を潤す力があるようですが、近年流行しているコロナ対策も万全でした。ぜひ心と体安らぐひとときをご体験ください！



INFORMATION

【湯の国会館】
伊豆市青羽根 188
TEL: 0558-87-1192
営業時間: 10:00~21:00
定休日: 第2・第4水曜日

古民家カフェ hasama café

オーナーの
思い出詰まつた古民家カフェ

取材/TRYKA 文/彩寧 写真/璃紗・孝太郎・他 イラスト/孝太郎・結仁

私たちがドアを開き、店内に入った時、どこか懐かしい風が私たちをかんげいしてくれました。山のぶもとにたたずむ「はさまカフェ」さんです。

はさまカフェにはなつかしく感じる理由があります。

「昔の力ぎ？なにそれ？」

と思う人も多いと思うのでかん單に説明すると、つまむ部分があつて、そこをつまみながらひねります。そうすると、力ぎがかかります。このような昔のものがたくさんあります。

その他にも、絵本がメニューに

なつていて女性にもおすすめです！ぜひ来てみてください！

ご飯には野菜がふんだんに使われています！女性にもおすすめです！ぜひ来てみてください！



INFORMATION

【古民家カフェ hasama café】
伊豆市中原戸 68
TEL: 0558-83-1172
営業時間: 11:00~15:30
定休日: 日・月・火・水曜日



It makes you feel relaxed



21.



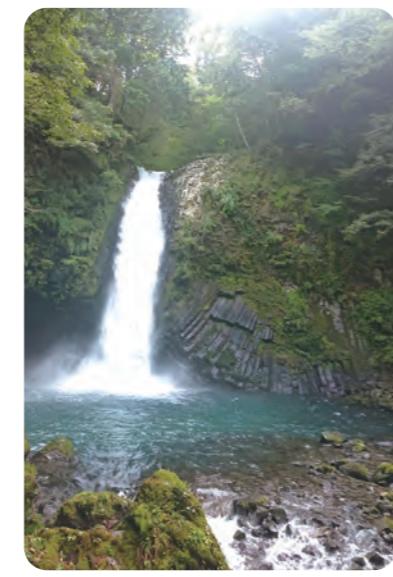
20.



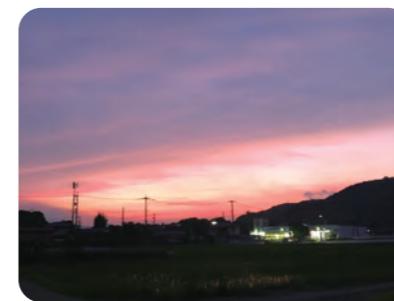
17.



16.



12.



7.



4.



2.



1.



23.



22.



24.



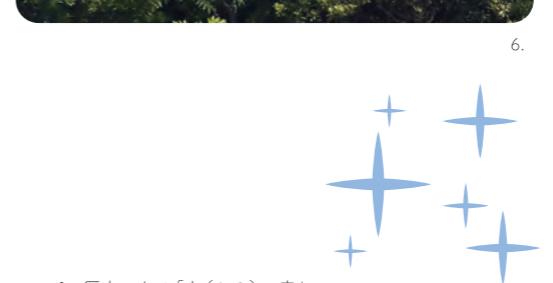
15.



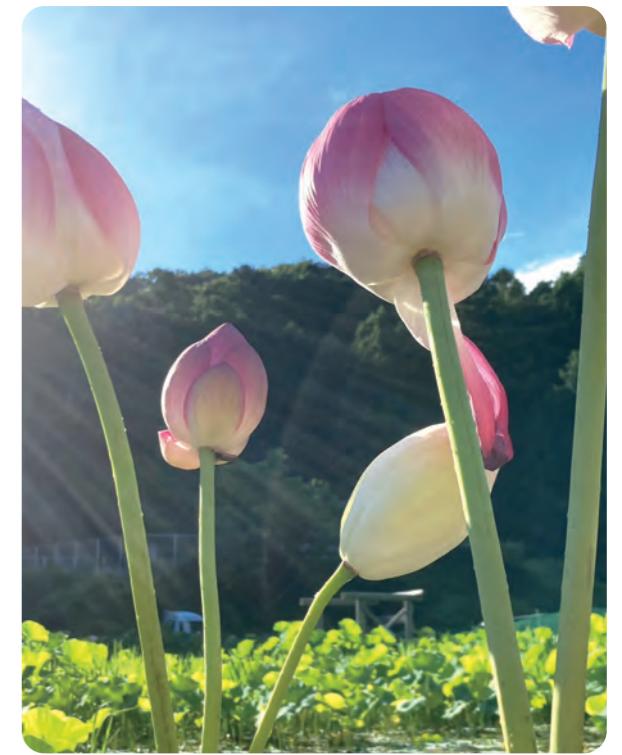
10.



11.



6.



3.

- 1. 歴史のある「上(かみ)の家」
- 2. 六仙の里で読書
- 3. 映えるハス
- 4. 見たらきっとチルくなれる！な滝
- 5. かわいいベンチみい～つけた♪
- 6. 青い海と真っ青な空 - 恋人岬から
- 7. 一日の終わりののどかな時間
- 8. 世古峡 宝石色の川
- 9. 貝の城
- 10. 影踏み
- 11. 常連さん



みんなの 身近な癒し

It makes you feel relaxed

写真／暁之介・彩寧・楓・孝太郎・零羽・千怜・
のの夏・萌花・美翠・結夏・結仁



伊豆で
"きらり"
輝く人



Check!
人気のサーフィンスポット

ふだんはこんなに穏やかな海なのに…。



足立海世さん

3歳からサーフィンをはじめ、小学校6年の時「第54回全日本サーフィン選手権大会キッズの部」で優勝。オリンピック選手を目指し日々練習を重ね全国各地の大会で活躍中。天城地区在住、中学3年生。



同世代への取材って、ちょっと照れくさい感じ…！

夢は世界チャンピオン

取材/Aqua
文/のの夏
写真/善・のの夏
イラスト/萌花

伊豆から世界を目指す中学生サーフィンファイター



Check!
全国各地の大会で活躍！

「夢は世界チャンピオン」
そう話してくれたのは、今国内で大活躍中のサーファー、足立海世さん。彼は現在中学3年生で、学校とサーフィンを両立して頑張っています。私は彼と幼なじみで、3歳のころからの付き合いです。そんな私でも知らなかつた話を、今回たくさん聞くことができました！

彼はお父さんの影響でなんと3歳からサーフィンをやっているそうです。私が初めて会った時にはもうサーフィンをやっていたんだと思ふとちょっと面白かったのです。

今では週4日ほど海に行って練習をするそう。取材をした日も、直前まで海に行つて練習していたそうです。彼の主な練習場所は下田の白浜というところですが、この日は台風が近づいていたこともあり、普段は波が穏やかな伊豆の別の海に波乗りへ。ここは台風の

時だけしかできないので、年に数回できるかどうか。県外からも人が集まる人気のサーフィンスポットらしいです。彼のお父さんはこの海が好きで、天城に移住してきたそうです。伊豆にそんなサーフィンスポットがあったなんて知らなかつたので、驚きました！海

さんは全国の海を行っていますが、やっぱり伊豆の海が一番好きだそうで。伊豆の海は水も砂浜もきれいで、そういうところだとモチベーションも上がるそうです。彼の自分の強みは、「ハワイなどで行っているため、大きな波が得意なこと」。小学4年生のころ

わたしたちは、「伊豆トレイルジャーニー」を企画・プロデュースした千葉達雄さんにお話を伺いました。そしてたくさん質問をさせていただきました。ぜひ読んで、伊豆には「きらり」輝く人がいると



伊豆で"きらり"輝く人

「伊豆にはこんなにすごい人がいるんだよ！」とみんなに紹介したい！地域のために頑張っている人、いきいきと活動している人、伊豆の明るい未来を担うきらりと輝く人たちを取材しました。



千葉達雄さん

トレイルランニングレースの世界で超人気の「伊豆トレイルジャーニー(ITJ)」「ウルトラトレイルマウントフジ(UTMF)」等を企画・プロデュース。アウトドア事業で持続可能な伊豆の地域活性を目指す(株)ソトエ代表取締役プロデューサー。

伊豆の隠れた有名人

世界から伊豆にランナーをよぶ仕掛け人

取材/SANTORE
文/明璃
写真/結夏・楓
イラスト/暁之介



[ITJ BASE Shuzenji]
伊豆市修善寺955-1
TEL: 0558-88-9572

2022年は12月に開催予定！

公式Youtube、facebookで情報やイベントもお知らせ！

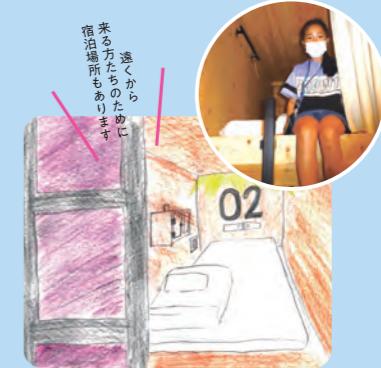
Youtube/
IZUTRAILJourney[OFFICIAL]

facebook/
<https://www.facebook.com/izutrailjourney>

わたしたちは、「伊豆トレイルジャーニー」を企画・プロデュースした千葉達雄さんにお話を伺いました。そしてたくさん質問をさせていただきました。ぜひ読んで、伊豆には「きらり」輝く人がいると

わたしたちは、「伊豆トレイルジャーニー」を企画・プロデュースした千葉達雄さんにお話を伺いました。そしてたくさん質問をさせていただきました。ぜひ読んで、伊豆には「きらり」輝く人がいると

わたしたちは、「伊豆トレイルジャーニー」を企画・プロデュースした千葉達雄さんにお話を伺いました。そしてたくさん質問をさせていただきました。ぜひ読んで、伊豆には「きらり」輝く人がいると





10th Anniversary

KURURA



**KURURA 発起人
COLOMAGA Project 代表**

浅井由剛さん

COLOMAGAプロジェクトの発起人である浅井由剛さん。COLOMAGAプロジェクトを作ったきっかけは、伊豆市修善寺南小学校で行っていたデザインの授業でした。「多くの人が子どものうちからデザインに関わる機会をつくりたい」という浅井さんの願いから、地元である静岡県の学校でデザインの授業を始めたそうです。その中で、「情報雑誌をつくれてみよう」というテーマで、このKURURAが生まれたそうです!そして、KURURAに参加した子どもは、自分の生まれ育ったところが好きになってくれたそうです。「そんな子どもたちが大人になって、その活動を思い出してくれたらその先のヒントになる」というのを聞いて、なるほどなあと思いました。「地元を良くしようと思う人が増えること」がCOLOMAGAプロジェクトの目標になっているそうです!!

現在、KURURAは10年目。浅井さんはあと30年ほど続けたいそうです。30年後には私たち(15歳)の年代で、自分の子どもがいるかもしれない。その子どもたちが、KURURAに参加できるくらい続けていきたいそうです!まずは、各都道府県に1つ。ゆくゆくは海外進出も…!?これからはCOLOMAGAプロジェクトがもっと楽しみになってきました!

取材/子ども編集部 文/のの夏 写真/のの夏・萌花



KURURA 制作実行委員会 代表

川口敦さん

私たちKAMISUKIチームはKURURA代表の川口さんにインタビューしました。

Q.KURURAにはなぜ入ろうと思った?

川口さんは元々伊豆市未来塾の観光チームという、伊豆市の観光をどうしたらもっとたくさんの人に知ってもらえるのか?という活動の中で、KURURAに出会って同じ活動だったことから一緒に活動するようになったそうです。

Q.KURURAを作っているときにうれしいことは?

印刷の仕事は、お客様の言われたとおりにしなくてはいけないけれど、KURURAはみんなで取材に行って、記事を書いていて、KURURAを作っている子ども達の日々の成長が嬉しいそうです。

Q.この先どうしたい?

この活動に参加してくれた子どもたちが実行委員となって10年、20年と続けていくことが目標だそうです。

私は、川口さんのお話を聞いてKURURAの事がこれまで以上に深く知れてよかったです。

取材/KAMISUKI 文/明音 写真/丞



KURURA 制作実行委員会 事務局

新田はるみさん

私たちが取材したのは新田はるみさんです。はるみさんはKURURA第2回から参加している大ベテランです。今回の取材ではKURURAの歴史など興味深いことを語ってくれました。

はるみさんはもともと、「伊豆市未来塾」に所属していました。伊豆市未来塾とは、平成17年から若者に対して地域の活性化を目的とした実践型まちづくりワークショップです。(要するに地元を元気にしようということです。) そこから生まれたのがKURURAと深くかかわりがある「こども未来塾」です。

「大人になった時、伊豆市の良さを発信できる人材に育ってほしい。」という思いから開催したそうです。やっているこ

とは切り絵をやったり木でお皿を作ったりと、KURURAと少し似ています。ですが体験後は感想を書いたり、絵を描いたりして紙にまとめていて、記事にはしていませんでした。ある時、KURURA制作活動をしているNPOサプライズさんと共に感することが多く、一緒に活動をするようになります。そうして今のKURURA制作実行委員会ができました。

KURURAは今年で10周年。1冊目がでたとき、私はまだ3、4才でした。はるみさんは、「故郷を自慢できる子どもを増やしたい。」という思いでKURURAの制作活動をしています。私も将来、故郷「伊豆」を自慢できるようになりたいです。

取材/SANTORE 文/明璃 写真/結夏・楓



KURURA 制作実行委員会 顧問

大塚明さん

いつも機材準備をしてくださる大塚明さんは、天城中学校の元校長先生。大塚先生が愛称です。そんな方がなぜKURURAに?謎多き大塚先生に話を伺いました。

今回の話は天城中学校で生徒が人との繋がりが希薄である事、自尊感情が低い事を感じて起こした大きな行動が軸になります。その行動とは、天城中学校がユネスコスクールに加盟した事。簡単に説明すると平和を築き、持続可能な社会のために行動する学校の事で、世界中に広がっています。静岡県では初の加盟校。生徒に地元の素晴らしさを知ってもらい、地域に誇りや愛着を持つことが目的で、KURURAで活動している理由とも繋がっているそうです。

では実際に何をしたかというと、総合学習の中で福

祉・自然・職場体験、修学旅行、地域学習の流れで学習をし、学習を通じて自分の課題を持つ。課題解決のために行動を起こすことで自尊感情を高めていくのです。効果は抜群。例として、ブナの木が鹿に食べられている現状を知った生徒達が鹿の防護柵を立てようと考へ、行動したそう。全国平均以下だった自尊感情も全国以上に。生徒が持続可能な社会を理解すると共に行動する事の大切さを学んだのです。

大塚先生が今、子供達に必要だと思うのは「答えの見えない21世紀を生き抜く力」。地域の現状を学び、自分で課題を考え事が答えの見えない未来を生きる為に必要だと語っていました。その話を聞き、私は総合学習の受け方が変わりました。大塚先生の考え方が全国の学生に届いてほしいです。

取材/N+S³ 文/千怜 イラスト/千怜・七海

10周年記念企画① KURURA 制作実行委員会委員紹介

今年で10周年を迎えたKURURA。活動を記念して、いつも陰ながら支えてくれている実行委員会の方々にインタビューしてきました。どうしてこの活動に関わるようになったのかや、KURURAに対する思いを聞いてきました。

私たちTRY KAチームが取材したのは、高橋いづみさんです。まず、いづみさんについて紹介します。いづみさんは、KURURA制作実行委員会の事務局スタッフで、子どもローカルマガジンプロジェクト“COLOMAGA PJ”的本部事務局長です。そしてとても穏やかな人です。

私は今年初めてKURURAに入りましたが、いづみさんははじめから笑顔で、緊張がほぐれました。なので、とてもいい人です。そんないづみさんですが、KURURAへのこだわりが強い人です。

こだわりその1「自分で取材する」

メンバーが自分で見て、感じて、触って、聞いて、かいで、そうやって実際にやって制作する。そういうことです。

こだわりその2「楽しく活動する」

学校じゃないので、“楽しい!”と思ってほしい。それと、「子ども達がやりたいと言ってくれたものはかなえてあげたい」というのもこだわりです。

私は、いづみさんのことをまだ詳しく知れていなかったので、よかったです。

いづみさんが気になった方は、KURURAに入ってみてはいかがでしょうか?

取材/TRY KA 文/彩寧 写真/孝太郎・璃紗



10th Anniversary KURURA

10周年記念企画②



文: 子ども編集部

編集会議

子ども編集部会議では、参加メンバーが書いた原稿、イラスト、撮影した写真などが足りているのか?内容に合っているのか?などを考えています。冊子になる前の原稿が見られるのは子ども編集部の特権です!

「高校生になっても伊豆の魅力を届けたい」という想いから2017年に発足し6年目を迎えました。当時のメンバーは vol.2から参加している高校生と中学生の3人。毎年世代交代しながら、パワーアップした視点でワクワクするアイデアを膨らませています!



講座の運営

初回やクリエイターさんの講座の時に、スムーズに進められるよう司会進行を行っています。そして、ワークで困っている子たちがいればサポートなどもしています。講師の方からの質問に積極的に答えたり、大人スタッフの仕事を手伝ったりしています。

完成発表会

年間の活動最後の大仕事である完成発表会。慣れてきた運営の仕事に名残惜しさを感じながら、当日の準備や運営、司会等、精いっぱい取り組みます。完成したKURURAを先陣切って一般の人に配ることはなかなか慣れません。

講演活動

子ども編集部を伊豆エリアや三重県四日市市の倫理法人会で講師として呼んでいただきました。KURURAの活動がどんなものか、参加して学んだことは何かななどをたくさんの大人の前でお話ししてきました。



文: コネクトチーム

冊子の全体企画

各年度の冊子全体の企画、主にテーマ・取材先の検討をします。どんな人に読んでもらいたいか、何を伝えたいかを考えてテーマを決めたり、取材に行きたいところを提案して、その中からテーマに合った場所はどこかを決めています!

参加者、子ども編集部を経験したメンバーが「まだまだKURURAに関わりたい」という想いで仲間を集め、2020年に発足しました。参加者、子ども編集部、事務局を“つなぐ”チームとして現在大学生6人で活動しています。



資料作成

メンバー募集の資料、講座で使うアンケート用紙や、パワーポイントの作成もコネクトチームが担当しています!参加者のみんながワクワクするようなデザインを意識して、フィードバックをもらながら作成しています!

COLOMAGAサミットの企画や代表者会議への参加

毎年秋に開催されるコロマガサミットの企画・運営に向けた会議を行ない、楽しみながらコロマガで学んだ取材力や発信力を生かせるゲームを中心に内容を考えています。また、各地区的事務局の方にサミットの説明をするため代表者会議にも参加しています!

COLOMAGAサミット

サミット当日は企画した内容をもとに、全体進行やゲームの説明を担当します。会場とオンライン参加者が楽しくアイデアを出し合い、地域間での関わりを持つために、子どもたちのサポートやSNSも活用しています!



2012 発起人浅井が伊豆市立修善寺南小学校で「デザインと地域活性と教育をつなげた活動」、「自分たちの町のロゴを作ろう」、「地域のMAP作り」の授業を実施



2013 vol.1 伊豆市立修善寺南小学校の授業で前年度の内容をさらに深めたローカルマガジン「KURURA vol.1」を制作



2014 vol.2 伊豆市全域に対象を広げて参加者を公募しての活動を開始



2015 vol.3 「KURURA制作実行委員会」が発足し、以降事務局となる

2016 vol.4 東京都文京区が同様の活動開始

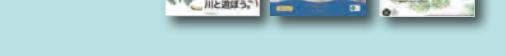


2017 vol.5 参加メンバーOBの中学生・高校生による 子ども編集部 発足

2018 vol.6 全国展開を目指し活動名を「COLOMAGA Project」とし、KURURAは「伊豆市版」という位置づけになる経産省「キッズデザイン賞」受賞
子ども編集部が倫理法人会等で初の講演



2019 vol.7 日本新聞博物館主催 企画展に文京区版 MITAMIYO!!と共に展出
静岡県伊豆の国市版・山梨県北杜市版・広島県広島市&廿日市市版 活動開始



2020 vol.8 OBを中心とした大学生が KURURAコネクトチーム を結成
静岡県沼津市内浦西浦版 活動開始



2021 vol.9 コネクトチームの企画運営で全地域間の交流を図る「コロマガサミット0」実施
長野県安曇野市版 活動開始



2022 vol.10 「コロマガサミット vol.1」実施
静岡県富士宮市、富士市、神奈川県鎌倉市、大阪府南部版 活動開始



— Izu City Guide Map —



1 小土肥海水浴場
P08-09
伊豆市小土肥 279

2 修善寺紙谷和紙工房
P06
伊豆市修善寺 1302-1
TEL: 050-3699-4284

3 ITJ BASE Shuzenji
P10
伊豆市修善寺 955-1
TEL: 0558-88-9572

4 柳生の庄
P04-05
伊豆市修善寺 1116-6
TEL: 0558-72-4126

5 湯の国会館
P07
伊豆市青羽根 188
TEL: 0558-87-1192

6 古民家カフェ hasama café
P07
伊豆市中原戸 68
TEL: 0558-83-1172

こどもローカルマガジン **COLOMAGA** Summit report



サミットとは年に一度、コロマガプロジェクトに参加している子どもたちが集まる交流会です！
KURURAコネクトチームが企画・運営を担当しています。
サミットの内容はインタビュー、イラストを描く、写真を撮るなど冊子づくりで身につけたスキルを使う企画になっています。普段は会うことのできない他の地域の人たちには、どんな素敵なお話があるのか知ることができます。
2020年にスタートし今年で3回目となります(1回目は、キックオフの意味で「vol.0」としました)。

文 / 安池凜 (コネクトチーム)

今年も無事に開催できました
「COLOMAGA サミット」のご報告です！

計9地域が参加し、伊豆市、伊豆の国市、沼津市西浦内浦、文京区が伊豆市内の会場に、安曇野市、鎌倉市、富士市、富士宮市、北杜市とは中継でつながり、レクリエーションを通して各地域の魅力を伝えあいました。
参加した子供たちは、取材や記事・イラストの制作で身につけたアイデア力や話し合う力を發揮しながら、企画に楽しんで取り組んでいました！



今年もオンラインで、9地域が繋がりました！



また、限られた時間で話し合って皆で答えを出したり何かを作ったりすることは大変で難しいですが、一人一人が積極的に取り組もう、考えようとするのがコロマガプロジェクトに参加する子供たちのステキなところです。

それぞれのグループが考えた個性的な投稿を見せて笑ったり、お互いの冊子をほめ合ったりして楽しむことが出来たコロマガサミット vol.2でした！！

こどもローカルマガジン COLOMAGA project

Point 1

子どもたちが自分のまちを取材し冊子を作る。

『COLOMAGA(コロマガ)』は、こどもローカルマガジンの略。子どもたちとプロのクリエイターが自分の“まち”を取材し、ローカルマガジン(地域情報誌)と一緒に作る非営利の活動です。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県などの1都2府5県14エリアが参画し、地域を超えた交流も行っています!



私たちの活動は、SDGsの「No.4-質の高い教育をみんなに」「No.11-住み続けられるまちづくりを」を実現する実践者として、ESD-J(持続可能な開発のための教育)の「未来を変える人づくり」活動として高く評価されています。2018年、経済産業省が制定した「キッズデザイン賞・子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」にて受賞いたしました。

各地域で続々とコロマガ活動エリアが拡大中!!



東京都文京区
「MITAMIYO!!」
VOL.04



静岡県伊豆の国市
「IZUCCO」
VOL.03



静岡県沼津市
「うらっちょ」
VOL.02



山梨県北杜市
「ぼくとこ」
VOL.03



長野県安曇野市
「AZUMO!」
VOL.01

創刊号の発刊を目指して、進行中エリア!
静岡県富士宮市、静岡県富士市、神奈川県鎌倉市、
大阪市南部など

[各地域のメンバー紹介] [バックナンバー読みます!]

QRコード

企業・団体・個人さまとのコラボ募集中!!

立ち上げ・応援・視察・講演・コラボなど、コロマガはさまざまなカタチで参加することができます。詳しくは公式サイトよりお問い合わせください。



コロマガに
参加したい



コロマガを
応援したい



コロマガを
視察したい



コロマガと
コラボしたい

2022年10月
SITE OPEN!!



COLOMAGA Project
公式ウェブサイト

各地域ごとに有志で集い、資金調達にも日々励んでおります。
ご支援のほど、ぜひお待ちしております。

Point 2

見て聞いて感じたことをプロに学び、創造する。

自分たちが住む“まち”をもっと知るために、実際に足を運んで子どもたちとプロのクリエイターが自分の“まち”を取材し、ローカルマガジン(地域情報誌)と一緒に作る非営利の活動です。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県などの1都2府5県14エリアが参画し、地域を超えた交流も行っています!

子どもも大人も地域を知り繋がるきっかけに!

子どもたちが世代を超えて出会う人々と交わすコミュニケーションは、かけがえのない思い出や体験。“まち”的魅力を知れば知るほど好きになり、自分の居場所になっていく。“まち”のために何ができるだろうと考える人がひとりでも多く育って欲しい。みんなの集めた情報をプロが冊子にまとめて完成です!

編集後記



COLOMAGA project 代表 浅井由剛

10年目を迎えて

KURURA 制作実行委員会 事務局 川口 敦

KURURA 制作実行委員会 事務局 高橋いづみ

目標としていた10号が完成しました。今まで参加してくれた子どもたち、応援してくれた地域の皆さま、そして活動に共感していただき子どもたちにレクチャーしてくれたクリエーターの皆さまにお礼申し上げます。ありがとうございました。『伊豆を担う子どもたちを育てたい』という当初の目標を達成する為に、これからもこの活動を暖かく見守っていただければと思います。

10年目…ここまでは平たんな道のりではなく、参加者を募るのも、毎年活動資金を得るのも、1年1年手探りで、実行委員メンバーと共に1つ1つ乗り越え、気づいたら子どもたちはすっかり成長し、他地域にも広がり、多くの人に認めてもらえる活動になりました。まだまだ、試行錯誤しながら楽しみながら続けて行けたら。引き続きご支援いただけたら幸いです。

このプロジェクトをはじめる時に、周りにも自分たちにも「10年間続けよう!」と約束しました。このプロジェクトに関わった子どもたちが大人になって、自分たちの夢を追いかけてる時、きっとここでの活動が自分で生きていることをわかってくれると信じて、次の10年を続けていきたいと思います。きっと世界に広がる活動だと信じて!

子ども編集部 大石桜子(編集長)・鈴木ちひろ(副編集長・高橋の夏(副編集長)
岡田七海・熊川萌花・永田千怜・小野寺禪羽・山崎結夏

コネクトチーム

内田陽仁・小林舞・高橋こなつ・安池凜・新田愛琳
坂ノ上こはく

KURURA 制作実行委員会

代表



子ども未来塾

川口敦



子ども未来塾



元天城中学校校長



サポートスタッフ



サポートスタッフ



COLOMAGA Project 代表



浅井由剛

Special Thanks

クリエイティブワークショップ講師
取材講座: 静岡新聞大仁支局長 小澤佑太郎さん
ライティング講座: フリーライター 有川美紀子さん
写真講座: フォトグラファー 武智一雄さん
イラスト講座: イラストレーター HELEN さん

制 作: KURURA 制作実行委員会
特定非営利活動法人NPOサプライズ
子ども未来塾
クリエイターチームカラフル

協 力: 9izu、ホテルラフオーレ修善寺
いさぶや印刷工業株式会社、ぬましんCOMPASS修善寺、
鈴木奈仁子、田足井美帆、長岡善章(株式会社アーティスティックス)、
COLOMAGA Project 本部&各地域版事務局
*順不同・敬称略

デザイン: 株式会社カラーコード【浅井由剛・黒澤夏子・爲壮京子】

賛: 伊豆中央倫理法人会、うさぎ薬局修善寺店、自然療法サロンミモザ

イラスト: 【表紙】七海 【裏表紙】彩寧

鈴木しあたけ園、田方地区労働者福祉協議会、滝尻わさび園

後 援: 伊豆市、伊豆市教育委員会
ESD-J(NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議)

(株)にしはらグループ、堀江歯科、マリンステーション・マー婆ウ
*五十音順・敬称略

問い合わせ: KURURA 制作実行委員会事務局

サポーター: (KURURA ファンクラブ新規会員)
岡田明子、小澤佑太郎、扇谷陶子、十倉亜沙美、長岡善章、匿名の方々
※五十音順・敬称略 2021年12月~2022年11月

〒410-2407

静岡県伊豆市柏久保 1304 1F 伊豆市若者交流施設 9izu 内
TEL 0558-99-9120

ごみん共済 coop 地域貢献助成事業

支援: アーツカウンシルしづおか

アーツカウンシルしづおかとは
「アーツカウンシルしづおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。